

福島の過去・現在・未来

双葉組A班

学生：穴迫祐 七田謙太郎 徳武千鶴 八谷寛人

チューター：吉岡直希 足立玖美佳

- 1.測定の動機
- 2.測定結果と考察
- 3.考察のまとめ
- 4.議論

- 1. 測定 of 動機
- 2. 測定結果と考察
- 3. 考察のまとめ
- 4. 議論

5cmライナー2本、30cmライナー2本とススキとミゾソバを測定

採取した場所

5cmライナー① 排水口の出口

5cmライナー② 水辺

30cmライナー①
排水溝をさらに降りたところ

30cmライナー② 5cm②の対岸

ススキ 5cmライナー①の側

ミゾソバ 5cmライナー②の側

排水溝の出口



水辺



5cmライナー2本、30cmライナー2本とススキとミゾソバを測定

採取した場所

5cmライナー① 排水口の出口

5cmライナー② 水辺

30cmライナー①
排水溝をさらに降りたところ

30cmライナー② 5cm②の対岸

ススキ 5cmライナー①の側

ミゾソバ 5cmライナー②の側

- 山の斜面で放射線が遮られたのではないか
→ 谷側を調査

- 排水溝や池
→ 水辺の放射性物質の溜まり方を調べる
→ 双葉D班と協力して排水溝の入り口と出口の放射生濃度の違いを調べる

- 30cm①②
放射線濃度が高そうな水辺と、少し離れた土壌を採取し、濃度の傾向の違いを調べる

- 1.測定の動機
- 2.測定結果と考察
- 3.考察のまとめ
- 4.議論

5cmライナー① 排水口の出口

※誤差は省略

54142±222BQ/KG

入り口は約6000BQ/KG(D班の測定より)

途中で枝分かれており、完全な入り口と出口じゃない。

ただ入り口より集まる場所の方が汚染土壌が溜まりやすい傾向

5cmライナー② 池の崖側の土壌

7030±87 Bq/kg

側に崖があり、崖の上から土が覆い被さって放射能濃度が低いのかも？

30cmライナー① 谷を降りてすぐの土壌

空間線量

5cm: 7.056 μ SV/h
1m: 5.15 μ SV/h

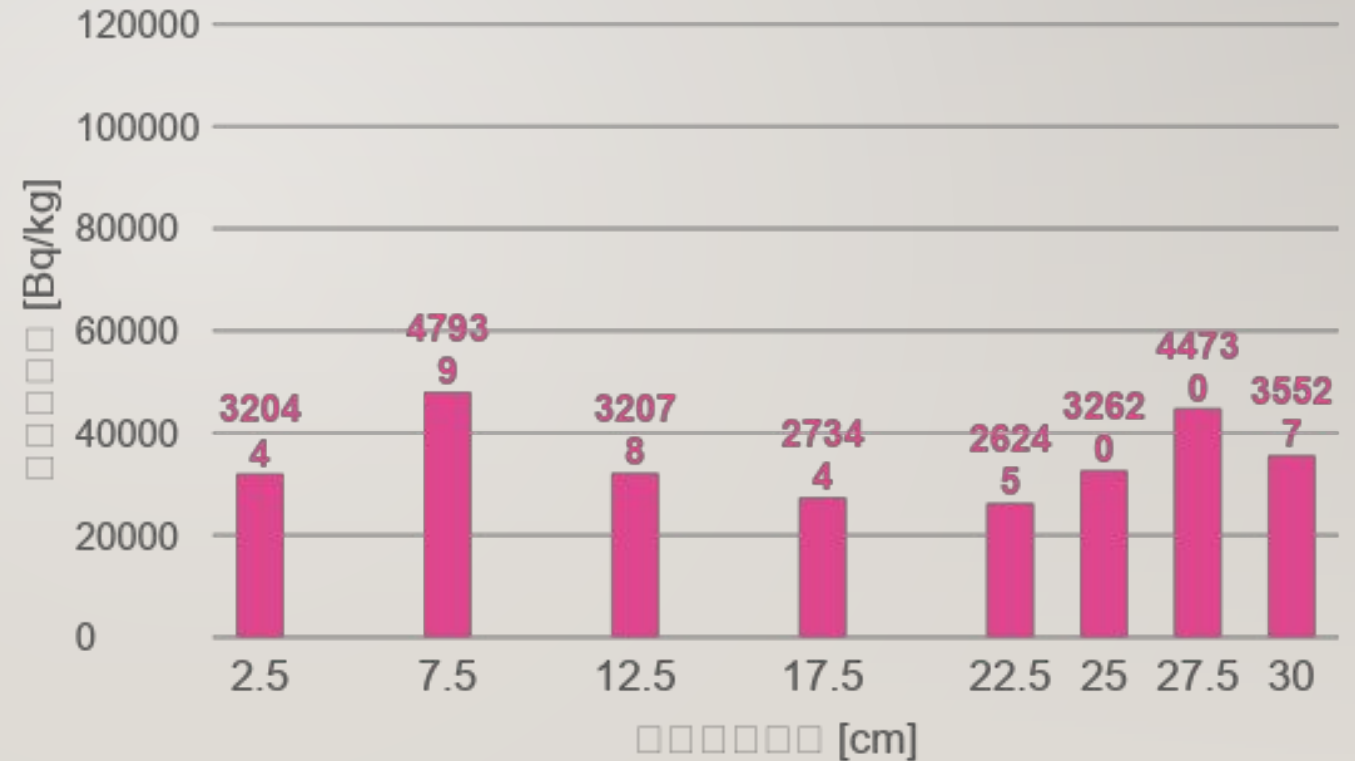
- 全体的に高い数値
- 明確に突出している部分は見られない

考察

➡ ①動物によって、汚染土壌が掘ったり、埋めたりで荒らされ、放射能濃度が分散した

②30cm以降に非常に汚染された土壌があって、その残りカスが検知された

➡ 1mほどライナーを取って、更に調べてみたい。



測定結果と考察 ライナー

9

30cmライナー② 池で採取した5cmの対岸の土壌

- 深さ12cm付近で放射能濃度が急激に増加
- 地表から深さ7.5cmまではほとんど数値の変化はない

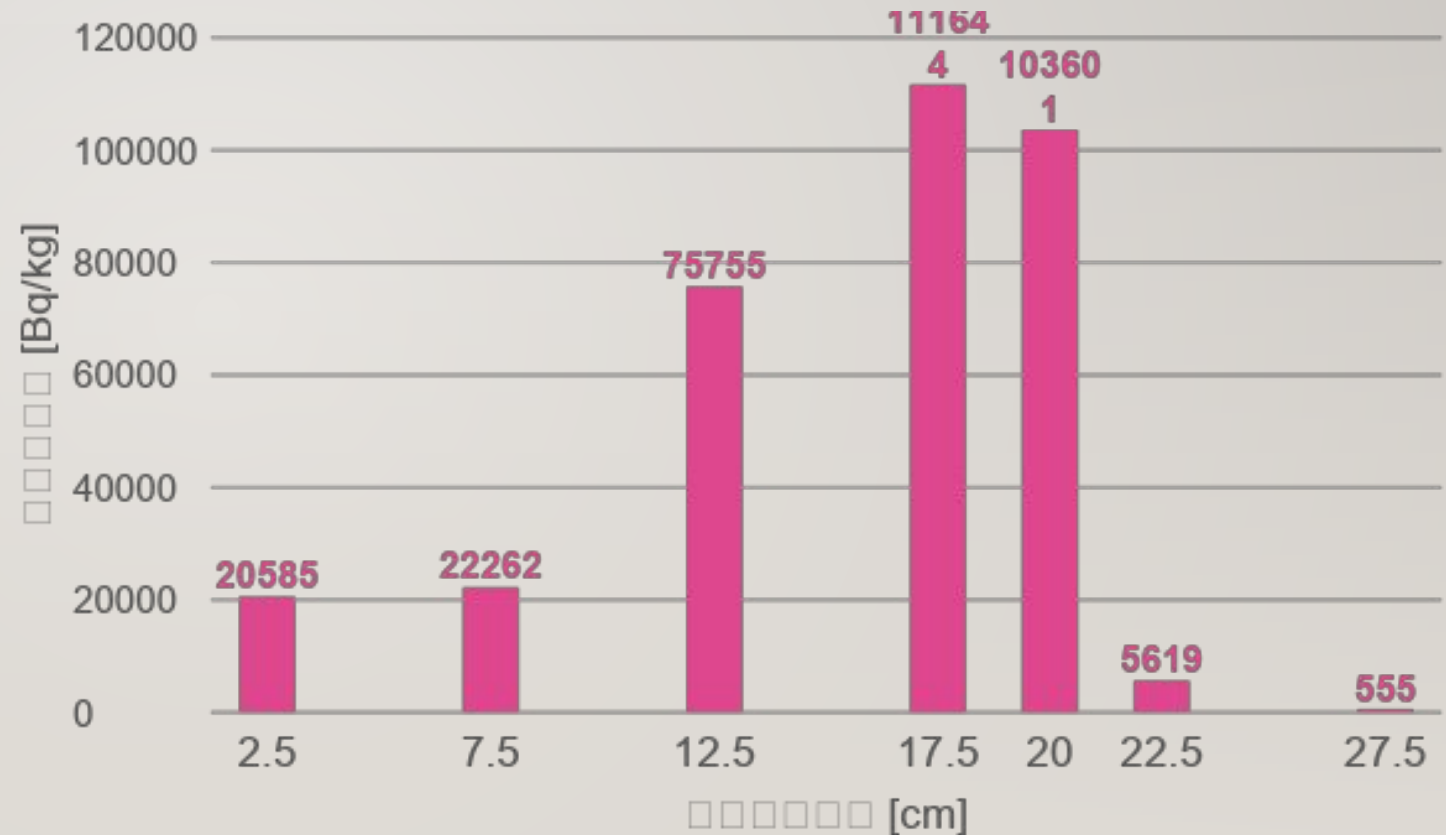
考察

-
- ① 12cm~20cmに汚染された地下水が溜まっている
 - ② 地中深くで放射能濃度が高い
→地上での放射線量が低い
 - ③ 20cm以降急激に濃度が低下
→以降に高濃度な土壌はないのか

空間線量

5cm: 3.465 μ SV/h
1m: 3.989 μ SV/h

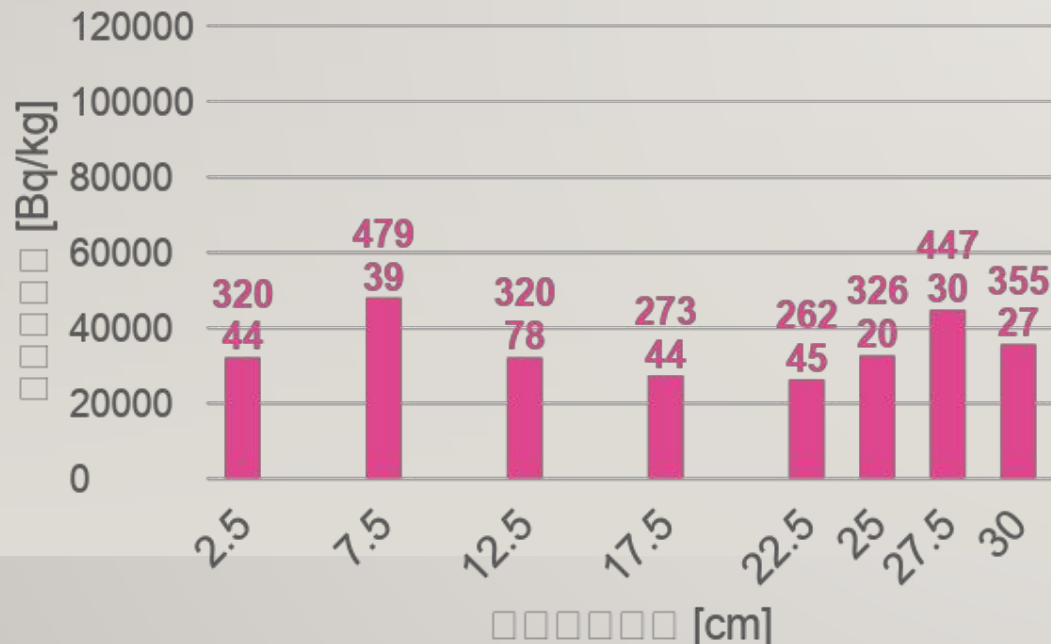
30cmライナーと比べてかなり低い



- ②のピーク濃度土壌が①では動物に荒らされてバラついたのでないか
→水辺の側の崖から土が覆い被さり②は荒らされなかった？
- ②は地中に放射能濃度の高い土壌があったので②の空間線量は①に比べ低い

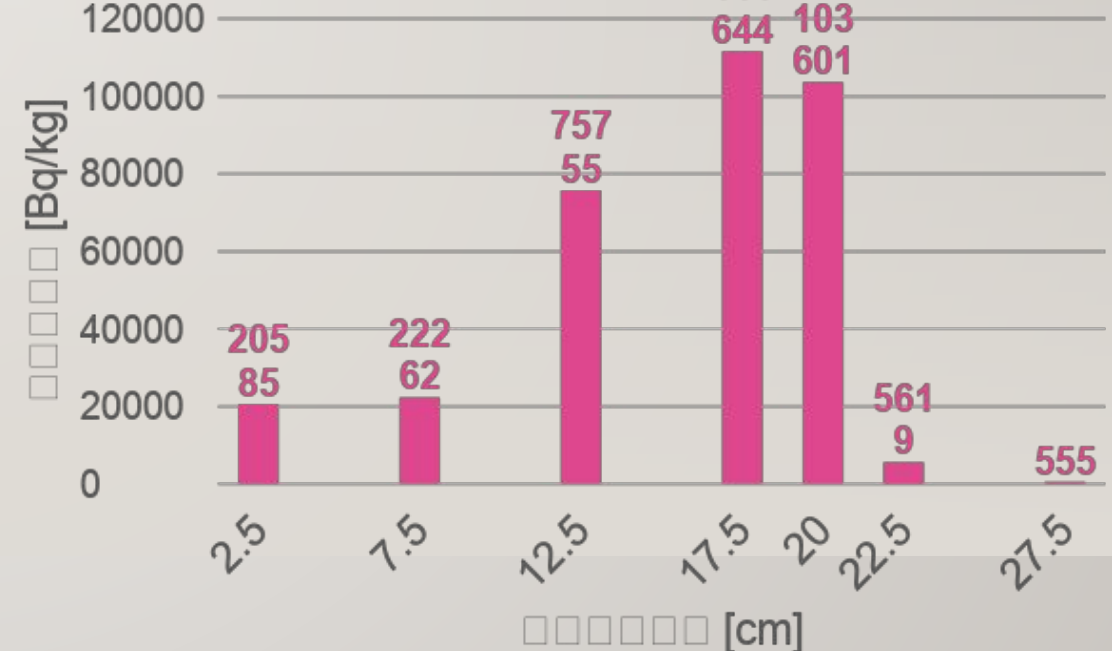
①水辺から離れたところ

5cm: 7.056 μ SV/h
1m: 5.15 μ SV/h



②水辺

5cm: 3.465 μ SV/h
1m: 3.989 μ SV/h



ススキ



空間線量

5cm: $9.336\mu\text{SV/h}$
1m: $8.087\mu\text{SV/h}$

放射能濃度

$419\pm 80\text{Bq/kg}$

ミゾソバ



空間線量

5cm: $3.465\mu\text{SV/h}$
1m: $3.989\mu\text{SV/h}$

放射能濃度

$298\pm 54\text{Bq/kg}$

網状脈の方が放射能を蓄えやすい？

- 1.測定の動機
- 2.測定結果と考察
- 3.まとめ
- 4.議論

分かったこと

- ・2本の30cmライナー

- ➡近い位置から採ったが、データが大きく異なる。

- ➡放射能濃度はその環境で大きく変化し、高濃度の場所の予想はつきづらい。

- ・排水溝の出口や池近くで高濃度。

- ➡水による運搬や堆積の影響が大きいと思われる。

・更に調べる必要があること

- 谷部分のデータと斜面部分のデータの比較。
- 排水溝には複数の出口→他の部分のデータは？
- 植物は種類を多くすることを優先
➡比較がしにくい。

- 1. 測定の動機
- 2. 測定結果と考察
- 3. 考察のまとめ
- 4. 議論

私たちが研修中に感じた感想

- ・1Fのお金が気になる、風評を気にしすぎているのではないか
- ・植物の同定を甘えすぎた、もっとがんばればよかった
- ・交流の際復興に関しての想いは人によってそれぞれ
- ・人が来て欲しい、来てほしくないなど違うのが驚き
- ・風評被害にお金や時間を使わなかったらもっと早くに廃炉できていたのではないか

福島の過去と今と未来について

過去

原発が誇りだった

100%安全だと言われていたが、原発事故があって住めなくなってしまった

今

今は他の地域の人たちと変わらない生活を送れている

他の地域の人と同じような悩みを抱えている

デブリの処理などまだ決まりきっていないことも多くある

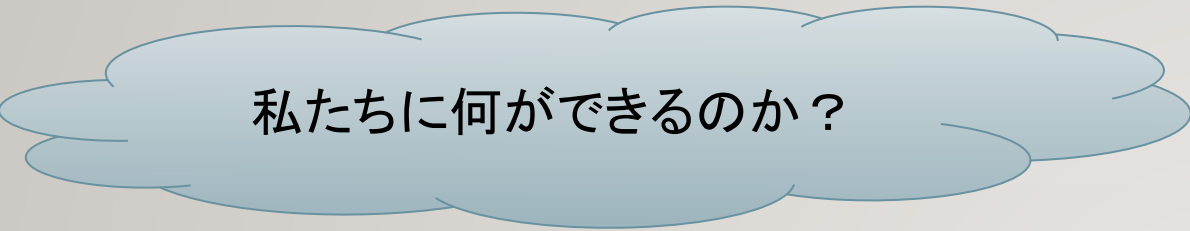
将来に問題を多く残している

未来

中間貯蔵施設にある土をどうしていけば良いのか

復興に関して人の望みようが違う

多く人が訪れるようになるのが良いことなのか



私たちに何ができるのか？

国民全体に対しての風評被害の対策は国の仕事

自分たちはもっと身近な人たちに対して個別の説明をしていくべき

→数字などを使ってその人にとってわかりやすい、理解が進む対応をしていく